

石狩川流域シンポジウム

石狩川流域におけるサイクリングツーリズムの展開

国内外に石狩川流域の魅力を発信することで流域圏全体の活性化を目指す、流域46の市町村長が参加する石狩川流域圏会議は、9月2日、札幌市で「石狩川流域におけるサイクリングツーリズムの展開」をテーマに石狩川流域シンポジウムを開催しました。

基調講演

自転車を利用した観光のこれから

～しまなみ海道の実例～



宮内 忍 氏
(株)八重洲出版自転車事業部CILISSIMO編集長

広島、愛媛両県の瀬戸内海の西側は広域のサイクリングコースが設定され、コースのネットワーク化により組合せが可能になり、ダイナミックなコースになっています。この特徴は、各首長の皆さん方がスポーツサイクルに乗って自転車を熟知していることで、政策が的を得ていることにあります。また、愛媛県では職員にもスポーツバイクを理解してもらうために、プロを招いた講習会を開催しています。

しまなみ海道が「サイクリストの聖地」としてブランド化に成功した理由は、自分の力で、本州と四国を渡ることができるという達成感があることと、橋を渡る時に、上は空、下は海で他では味わえないライダーに乗った気分になることにあります。マスメディアで取り上げられたこともありますが、ジャイアントいまばり※1ストアの今治店・尾道店おのみちが開店するなど、ジャイアントトラベルいまばり※2という旅行会社を持つジャイアントグループとの関係ができたことが大きな要因です。

平成19年、広島・愛媛両県の2市1町及び関係18団体は「瀬戸内しまなみ海道周辺地域振興協議会」を設立し、連携がうまくいっている一方、競うように自転

車観光振興施策を実施するなど競争原理も働いています。国土交通省の「観光圏整備事業※3」の認定による財政支援でレンタサイクルの充実、4カ国語のサイクリングマップの作成等多くの取り組みが実現しています。地元にもサイクリング関係の団体や役所内にも専門の部署をつくっています。

ジャイアントの専門家がアドバイザーに就いたことにより、スポーツサイクルに関する適切な施策が取られるようになったことも効果的でした。車道の左側にブルーラインによる推奨コース表示、サイクリストが一目で分かる統一デザインの地図入り案内板、有料であった橋の通行料金の無料化、官のほかに民でもサイクリングマップを作成しています。

情報の提供の点で言いますと、無料のサイクリングマップのほか、市販のマップがたくさん出回っています。インバウンドツアーの誘致の取り組みとして、海外・国内向けの報道機関者のためのツアーやファミツアー※4を実施、自転車見本市にも出展しています。各コース名は公募して決めています。募集時と決定時にマスコミに取り上げてもらえるので、無料で宣伝が行えます。ウェブサイトは、英語・中国語・韓国語の外国版にリンクできるようになっていますし、メール発信や投稿可能なサイトもあります。外国人が最も求めるWi-Fiサービスが150カ所に設けられています。

交通運輸サービスは14カ所で乗捨て可能なレンタサイクルに加え、ルートの両端の今治市・尾道市のジャイアントショップでは、高級スポーツバイクのレンタルを行っています。乗船料割引運賃制度や、行きは自転車、帰りはすぐ帰りたい人のために自転車を載せることができる高速バスも走っています。四国では、サイクルトレインが運行されており、荷物を運んでもらえるサービスもあります。「サイクルオアシス」が69

※1 ジャイアント
 1972年、台湾のキング・リユーが設立した世界最大の自転車生産会社。89年には、日本に備ジャイアントを設立、世界中にネットワークを拡大している。
 ※2 ジャイアントトラベル (Giant Establishes a Travel Agency)
 ジャイアントが2009年に設立した旅行代理店。

※3 観光圏整備事業
 2008年、成立・施行した観光圏整備法に基づき、事業者が共同して地域の魅力を高める目的で行う事業。国土交通省が認定し、国の総合的支援を行う。
 ※4 ファミツアー (FAMツアー)
 業界関係者やメディアを対象とした現地訪問ツアー。

カ所設置されており、飲料水・トイレ・情報提供・サイクルスタンド・ポンプ・工具が用意されており、誰でも無料で使用できます。

多くの宿泊施設や飲食店にサイクルスタンドが設置されているほか、サイクリスト向けのゲストハウスができており、自転車に優しい「しまなみ自転車の宿」の募集もしています。尾道、今治では当たり前ですが、部屋まで自転車を持込めたり、高級な自転車に対してセキュリティーが万全の駐輪場が用意されています。

尾道駅と今治駅には輪行^{※5}用に自転車を組立てることができるスペースがあります。実は、女満別空港に先んじていますが、松山空港には自転車組立場・更衣室などがあるサイクルステーションが用意されています。自転車旅行の援助では、ANAによるツアー商品、ガイド付きツアー、新入学高校生向けの自転車で走るオリエンテーション合宿を行っており、年間4千人を受け入れています。自転車出張修理やチューブの自販機も用意されています。

魅力アップ策としては、ガイド育成講習を行っています。そのほか、イベントの実施、推奨コース以外のサブコースの設定、ご当地グルメ、サイクリスト向けの来訪記念グッズ商品販売、お守り販売や安全のお払いを行ってくれる自転車神社があります。

各県は協働もしていますが競争もすることにより、自転車に優しい環境が構築されています。メディア、IT企業、通信会社、公共交通機関、スタンドの寄附等地元企業と官の協調体制が整っています。サイクルスポーツに見識あるアドバイザーを迎えることにより、自転車ニーズに合致した施策が行えました。首長が自らサイクルスポーツを行うので施策がスムーズに進みます。ジャイアント社との関係強化、さらに「ナショナルサイクリングロード構想^{※6}」によるブランド化に取り組んでいます。本州四国連結橋ができたことにより通過交通量は増えましたが、入り込みが激減した危機感が、自転車を見直すきっかけになり、島に降りる生活道路である自転車道をサイクリングロードとして整備する基になっています。

※5 輪行
サイクリストが自走せず、自転車を分解して専用の袋に入れ、公共交通機関に持ち込んで目的地まで移動すること。

※6 ナショナルサイクリングロード構想
広島県が2013年に世界水準の自転車道を国が認定する「ナショナルサイクリングロード」の制度創出を国土交通省に求め、中国地方をサイクリングのメッカとする構想。

パネルディスカッション

石狩川流域におけるサイクルツーリズムの展開



コーディネーター
原 文宏 氏
㈱北海道開発技術センター理事・㈱シーニックバイウェイ支援センター理事

原 本日のパネルディスカッションは、石狩川流域サイクリングマップ石狩南部・空知南部編の3コースが出来上がった報告を兼ねています。今後、北部・中部を含めた大きなマップが完成し、基調講演で紹介のあった地域をしのぐサイクルネットワークが出来上がると、全国のサイクリストが押し寄せてくるのではと期待しています。マップはできまし

たが、つくって終わりでは意味がなく、マップを使って石狩川流域にサイクルツーリズムを展開していくことが基本です。人を呼び込むハード・ソフト面の仕掛けが重要です。石狩川流域でサイクリングと観光地域づくりの仕掛けを、どのあたりから始めたらよいか、宮内さんにうかがいます。

宮内 このサイクリングマップが出来上がったことが、スタートしたということです。

このマップは非常によくできていて、コースごとに難易度のレーティング（格付け）の表示があります。私は毎年25人くらいの仲間とツーリングをしています。来年は北海道と決めており、早速このマップが役に立ちます。まず、このマップを知らしめなくてはならない。空港、札幌駅等のゲートに置く、ウェブサイトで発信する、インバウンドツアーに売り込むなど、あまり費用は掛からないので、まず、知らしめる努力をさまざまな機会を通じて行うことが大切です。

原 皆さんから、観光地域づくりにこういう仕掛けをしたらといったところをお聞きします。



パネラー
太田 明子 氏
太田ビジネス工房代表・サッポロ・バイクプロジェクト代表

太田 私は関西出身で北海道に来てから20年になります。北海道の食・景色・空気・温泉などはサイクリストにとって宝の山ですが、これで北海道がもうけないのは何をしているのかと思っています。例えば、サイクリングロードの整備、自転車スタ

ンドは、自転車に乗っていない担当者が設置しないことです。もし、地元サイクリストがいない場合は、われわれ自転車愛好家に依頼していただきたい。そして自転車愛にあふれた地元の人が自転車に乗っているまちですとアピールするところまで持っていくことが大切です。マップなどの各自治体の取り組みは、マーケティングや目的とする対象者・出口を考えないことが多いので、どこに行けば手に入るかわからない状態が続いているような気がします。このマップは、今月行うイベント会場でも配りたいと思いますが、出口をしっかりと意識した取り組みが必要です。宮内さんのお話にあったように、ここにも2人ほどいらっしゃいますが、首長がスポーツバイクに乗るといった素敵なまちが一つでもできればよいなと思っています。

原 お二人から情報発信が重要とお話がありました。本を出され情報発信しているみやげさん、どうですか。



パネラー
みやげ りかこ 氏
フォトライター・エディター・
NPO法人北海道サイクリングツアー協会理事

みやげ 地域づくりに自転車を活かすには、地域の人が気軽に自転車を体験できるイベントや活動が大切です。子供からお年寄りまで自転車に乗りながらコミュニケーションができるまちづくりがよいと思っています。まずは自転車に乗ってもらい、健康サイクリング、リフレッシュなどその良さを知ってほしいと思います。外から呼び込むには、ターゲットがどのような人たちか、何を求めているかを知る必要がありますが、共通しているのは温かいコミュニケーションなど、地元の人との交流です。歓迎する雰囲気をつくっていただければと思います。

原 地域の人を楽しむことが重要で、そのあたりから参加人口が増えてくるというところですか。今年4年目で7回実施している「えにわ・自転車散歩」も、最近では地元参加者が少ないといったことがあるようですが、イベントに行かなくても日常的に走っているからということもあると思います。泉谷さんいかがですか。

泉谷 ライオンズクラブでも家族向けのイベントを開催していて250人くらい参加するので、自転車人口は



パネラー
泉谷 清 氏
えにわ自転車散歩実行
委員会委員長・NPO法人
えにわ市民プラザ・ア
イル理事長

かなり多いと思います。お母さんたちと話をしていると、ママチャリで子供と一緒に散歩する、そういうまちにするときが来たのかなと思います。そうすると長い距離は無理で、恵庭市内のJR3駅中心に組立てていこうと考えています。子供連れなので、5kmくらいで食べたい、飲みたいといったことができるものをつくり上げていきたいと考えています。

自転車人口は多いので、ぜひ実現したいと思っています。

原 最近、北海道内では毎週のようにイベントが開催されており、どのイベントもすぐ定員になってしまう状況です。イベントは自転車文化が成熟し、自転車が身近にあるライフスタイルが出来上がる過程の導入部では必要ですが、イベントの次をどのように考えていったらいいのかお聞きします。

宮内 イベントとの中間的なものとして、マップとスタンプカードを利用して、主催者、参加者それぞれが期間の設定に自由度がある、地元飲食店などと連携したスタンプラリーによる認定制度が、費用・設備・人員が掛からないのでよいのではないかと。

太田 速いスピードで長い距離を走るツーリングとママチャリとの中間的なあり方で、何か特別なことをするのではなく、温泉やショッピングモール等への移動を自転車に乗って楽しむ、自転車を生活に取り入れるといった価値観を文化として広めたいと考えています。各地でイベントが行われていますが、過渡期にあり、いずれなくなるのではないかと見ています。ゆっくり走りながら街の魅力を街で楽しむという価値観を、自転車で再発見できるツアーを考えていただければと思います。自転車は速く走るだけでなく、健康で楽しむものですので活用してください。

みやげ イベントは、参加してどれだけ走れるか試すのにはいいのですが、参加者を集めることが目的になっているような気もします。イベント参加者が地元と交流して歓迎されていると実感することが大切で、イベント後のレポートにつなげることをしっかりやっ

ていく必要があると思います。

泉谷 えにわ自転車散歩の検討委員会では「とにかく走る」と「街の中をどうやって走るか」に意見が分かれていましたが、まちづくりの一環としてやっていくことになりました。コースを幾つもつくり、こういう店に行ける、ここで何か食べられる、次の週はどうするかなど楽しめるまちづくりをする。自転車で巡り、ふと立ち止るとこんな良い所がある。それを友達や近所の人に話すことにより広がって、街の中で沢山のの人に自転車に乗ってもらえれば、そういった思いです。

原 いろいろな思いを持ったサイクリストを包含した地域をつくってほしいと思います。サイクリストが増えていくことは、初心者がいきなりスポーツバイクに乗ることもできます。このようなサイクリストのサポート体制も重要だと考えていますので、ハード面でのアイデアや経験をお聞かせください。

宮内 サイクルスタンド、専用のポンプ、工具をコンビニやガソリンスタンドに置いてもらうことが実現できると、自転車に優しい環境になると思います。マップの次のステップとして、サイクリングコースの案内看板ができればよいと思います。

太田 ホームマックには置いてあるのですが、サイクルスタンドやポンプが、道の駅や、補給や休憩によく使う地元のコンビニで借りられればよいと思います。自分で修理できる男の人はかっこいいので、自転車に乗る女子も増えてきますから、男子向けの講習会を開催できればと思います。

みやけ サイクリストに優しい道路整備と、女性としてはきれいなトイレの整備をお願いしたいと思います。道の駅にサイクルラックやポンプが置いてあればいいのと、自転車をそのままバスや鉄道に載せることができる仕組みが実現できればと思います。

泉谷 自転車屋さんがだんだん減ってきており、パンク修理は自分でできるようになることが必要です。教室を開けば、子供もお母さんも安心できるのではない

かと思います。

原 最低限、スタンドやポンプは必要だということですが、官民連携ができる道があると思います。また、自転車を単に売るのではなく、講習会を自転車屋さんと一緒にできればと思います。最後に、石狩川流域圏会議へのエールなどがあればお願いします。

宮内 これだけの首長に関心を持っていただき、ありがたいと思っています。自転車人口は増えていきますので、サイクリストに優しい環境を徐々につくっていければ、ポテンシャルの高い地域なので必ず自転車利用の観光客を誘致できると思います。

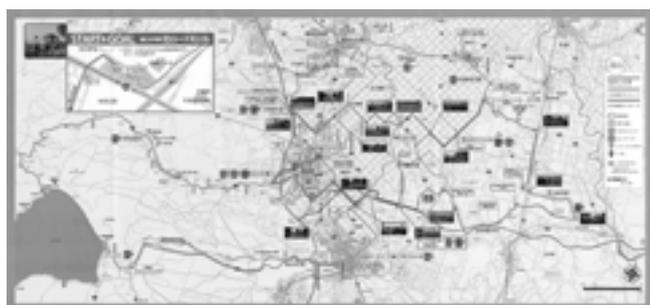
太田 このような場所で自転車のお話ができる日が来ることを想像していませんでしたが、皆さんと協力してサイクリングマップを完成させ、「しまなみ海道」のように多くの人を訪れる場所になればいいですね。

みやけ マップの後ろに「つながる46市町村」と書きましたが、まだ走っていない所があるので、流域としてつながって楽しいマップができれば、そのマップを持って流域を走ってみたいです。

サイクリング単独ではなく、さまざまなツーリズム、例えば、石狩川流域なので川と親しむ、カヌー・釣り・川遊び・ダム巡りを組み合わせることにより、面白いことができるのではないかと思います。

泉谷 このマップを使って実際に走ってみたいと思います。行政の方々と市民が一緒になってまちづくりをする、あるいはサイクリングをする、こんなことができれば良いと思っています。

原 マップはスタートで、これを使って地域の人々の健康であったり、ツーリズムで外から来る人を増やしていきたいと思っていますが、マップの発信とマップをベースとした環境整備に取り組み、サイクルツーリズムをこの地域で展開していきたいと考えています。



石狩川流域サイクリングマップ石狩南部・空知南部編 マップの問い合わせ/石狩川流域圏会議事務局（恵庭市役所建設部土木課 TEL0123-33-3131）